

箕面市地域公共交通活性化協議会
第11回路線バス網再編検討分科会 会議録

1. 日時

令和4年7月22日（金） 午後2時00分～午後3時10分

2. 場所

箕面市役所 2階 特別会議室

3. 出席者

(副会長)

- ・富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授 猪井博登

(委員)

- ・阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部課長 武藤雄飛
- ・北大阪急行電鉄株式会社延伸事業部調査役 秦健太郎
- ・大阪モノレール株式会社総務部経営戦略室係長 織田幸一
- ・阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部計画課長 田中祥敬
- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長 酒井大斗（オブザーバー）
- ・大阪府池田土木事務所地域支援・企画課企画グループ課長補佐 濱田洋
（代理出席）地域支援・企画課主査 浜本昇一郎
- ・公募市民 中尾佳生
- ・公募市民 堀康次郎
- ・箕面市地域創造部副部長 荻野知崇
- ・箕面市みどりまちづくり部道路管理室長 杉中純弥
- ・箕面市地域創造部箕面営業室担当室長 北川雅崇

(欠席)

- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司
- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所高槻維持出張所長 岩崎一紀
- ・大阪府箕面警察署交通課長 桂康政
- ・箕面市健康福祉部健康福祉政策室長 村中慶三

以上、委員15名のうち11名出席、オブザーバー1名出席

4. 議題

- (1) 地域公共交通計画（素案）に係る市民説明会及びパブリックコメントの実施結果について
- (2) 市民意見をふまえた再編案の再検討について
- (3) 市民意見をふまえた再検討結果の「路線バスのネットワークの再編（案）」への反映について
- (4) 社会実験路線の評価基準について
- (5) その他

5. 議事要旨

(1) 地域公共交通計画（素案）に係る市民説明会及びパブリックコメントの実施結果について

【意見・質疑なし。】

(2) 市民意見をふまえた再編案の再検討について

【検討内容は次のとおり。】

○箕面中央線新稲系統のルート設定を「呉羽の里」停留所までとした理由は、また、運行事業者である阪急バスとしてそのルート設定で問題ないか。

→箕面中央線新稲系統を「呉羽の里」停留所までとしたルート設定は、阪急バスが提案したものであり、問題はない。なお、箕面中央線や池田市内線とのルートの重複や回送と運行における輸送効率などを鑑みて、「呉羽の里」停留所までとするルート設定を提案した。

○如意谷線の再検討にあたって、より詳細な調査結果が提出されたとのことだが、具体的にどういった調査が行われ、その結果はどのようなものだったか。

→如意谷地域における現在と北大阪急行線延伸後それぞれの、目的別外出頻度、外出手段、外出する時間帯などを問うアンケート調査が実施されたとのこと。調査結果として、北大阪急行線延伸後も如意谷線の利用者は1,000人以上が予測されるというものであった。

○今回、如意谷地域において、そういったアンケート調査に取り組まれたこと自体は良いことだと思う。ただ、他の地域も同様に地域独自で調査などに取り組まれた場合はどうするのか。今回、なぜ如意谷線では、調査結果を踏まえて再編案の再検討に至ったのか。

→如意谷地域では、住民自身が、急な勾配の道路が連続する地理的特性などから、公共交通の利便性が低下することに非常に強い危機感を持っており、住民自ら公共交通の利用促進に取り組んできた実績がある。また、路線バスの再編後も引き続き公共交通の利用促進に取り組むということも聞いている。そういったこともふまえ、市としても如意谷地域の公共交通の維持・存続に向けて協力していくという考えのもと、再編案の再検討に至った。

(3) 市民意見をふまえた再検討結果の「路線バスのネットワークの再編（案）」への反映について

【意見・質疑なし。】

(4) 社会実験路線の評価基準について

【意見・質疑応答は次のとおり】

○公共交通を維持するには採算性を度外視する訳にはいかないということは理解する。一方で、どんどん公共交通を減らしていけばいいという訳でもないと思う。一筋縄ではいかないと思うが、公共交通を利用する個人が負担することや行政が負担することも考えなければいけないのではないか。

→ご指摘のとおり、運行事業者の営業路線として運行する以上、一定の採算性を確保した上で、いかに利便性を向上していくかという視点が重要。公共交通を利用する個人が負担する（＝運賃を上げる）ことについては、制度面的なハードルがあり、行政が負担することについても、利用者が少なく赤字が出ている路線に多額の税金を投入できるかというハードルがあると認識している。利用の実態を見極めながら、どこまでお金をかけていくかというバランスをとることが重要

だと考えている。

○オレンジゆずるバスは小型車両で細い道路も運行するなど良い取り組みだと思うが、路線の再編にあたって、阪急石橋阪大前駅や千里中央駅、北千里駅などの市外の駅にアクセスすることも検討願いたい。

→現在のオレンジゆずるバスも一部池田市域を運行しているなど、市外を運行すること自体が不可能ではないと考える。ただし、ご意見のような駅へのアクセスについては、基本的に鉄道や路線バスが担い、オレンジゆずるバスは、市役所や市立病院など市内に点在する市民生活にとって欠かせない施設へのアクセスを担うという形で役割分担することを考えている。また、他市域には他市域の公共交通のネットワークが形成されており、オレンジゆずるバスが運行することで需要を奪い、他市域の公共交通のネットワークが危ぶまれる可能性もあるため、慎重に検討する必要があると考える。

○社会実験の評価や減便などの検討はどういった場で実施されるか。

→箕面市地域公共交通活性化協議会で実施する予定。

○社会実験の評価はどのような形でアウトプットされるか。

→実際に評価を行う3ヶ月毎よりもさらに小刻み（1ヶ月毎など）に、社会実験路線の利用実態を広報することを予定している。広報にあたっては、その時点での利用状況にあわせて、基準を達成しているか否かや、評価基準に照らし合わせると路線が維持されるか、減便されるか、廃止の恐れがあるかなどをお知らせし、公共交通の利用促進につなげたいと考えている。

○社会実験路線の評価基準は非常に厳しい利用者数が示されているが、その基準を達成できるよう北大阪急行線の延伸とそれに伴う路線の再編までに公共交通の利用促進に取り組むことが重要。

(5) その他

【意見・質疑応答は次のとおり】

○オレンジゆずるバスの再編に関して、地域住民のみなさんときちんと議論・検討され、その方向性が今後示されることに期待している。

以上